

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 保健医療学部看護学科

名 前 田中弘子

作成日 2024年7月22日

1. 責務 (何を行っているか、何を果たしているか)

科目：「精神看護学実習」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「統合実習」「精神看護援助論Ⅰ」「精神看護援助論Ⅱ」「看護研究Ⅱ」「看護研究Ⅲ」「大学生入門」「領域別専門看護学演習」

教育活動：現在「全学学生委員会」「地域・産学連携センター」「学科学生委員会」「実習委員会」「親睦会」

過去「地域・産学連携センター」「広報委員会」「保健委員会」「学習支援（国家試験対策）委員会」「親睦会」「三郷市ボランティア活動」「就職支援担当者会」

責務：人間を「こころ」「からだ」「環境・社会」の視点から、総合的、科学的に探究するアプローチの一端を担い、看護の対象である患者理解につないでいけるように授業・実習を通して伝えていく。また、「よりよく生きるための知恵の創出」を踏まえ「自立」と「共生」の精神を備え、人間を理解して命の尊さを知り、生きること・生きていること・生きていくことを基礎として学び、さらには「よりよく生きる」ために必要となる力の修得に向けた探索を学生とともにやっていく

2. 理念 (教育に対する考え方)

・常に学生が目線で学習しやすい環境を整え、学生自ら学ぼうとする動機付けができるようにかかわりを持つこと

方法：授業では事例や体験談から分かりやすい説明を行うこと、時にロールプレイを行って実際に体験することから学びを深めていく

実習では指導者と協働し、学生が悩んだり行動に移せない理由などを知り、一緒に考えながら導入時にかかわり、状況を見ながら自立できるように見守りに変えていくなど成功体験を重ねる支援を行う

・学生が困っているときには、気持ちに寄り添い解決に向けて一緒に歩むこと

方法：特に病院実習時に多く見られる患者とのコミュニケーション、学生同士のグループでのトラブル、学習意欲の低下が見られる学生への声掛けや個別相談、学びやすい雰囲気作りなど細かな観察と配慮を行う

安心した環境から、自らが大切にされる体験をし、他者を思いやる気持ちがはぐくまれるように支援する

・コミュニケーションの学びとして、授業や実習を通して自己理解・他者理解について体験的に学習できるような工夫を行い、今後の人間関係に役立てていくこと

方法：再構成の技法を学び、実際に経験したことを取り上げて場面の再構成を行う

ロールプレイの技法を活用すること

現在授業では行っていないが、過去に授業で実施してきた「ロールレタリング」の技法も必要時は個別に活用することも可能（自己理解・他者理解を自分自身で体験できる技法であり、自身の感情が動くことで自分自身が整理でき、相手の気持ちになって考えることに役立つ）

上記を基に、常に学生の「感情」に寄り添えるように自分自身の人間性や感性を磨く努力をしています。学生自身が誰かに大切に思ってもらえる体験をすることが、人を思いやる心につながっていくため、そのお手伝いをしたいと考えています。まず、自分自身を大切に生きる力を育てていけるようにかかわる工夫をしていきます。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

変化する社会の中で、よりよく生き抜くための力として洞察力、共感力、創造性他、豊かな人間性が求められています。担当する精神看護学の授業や実習で看護を必要としている対象を理解するために、再構成という技法を用いて自己理解・他者理解のワークを行っています。その経験から他者への思いやりがはぐくまれ、対象への関心が高まり、看護に質の向上につながると考えています。そして、それは日常の人間関係にも役立つものになります。

また、心身相関の理解と人間の総理解を基盤とし、豊かなコミュニケーション力をはぐくめるような講義や実習指導を大切にしています。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

一昨年までは3人の教員が関わっていた精神看護援助論でした。それぞれの担当の授業内容や試験内容に差があり、難しい部分が多くGPAにも影響が出ていた状況でした。それぞれの授業内容や難易度レベルなどなかなか統一ができず考え方も違い、オムニバス形式の課題でもありました。昨年度から科目が分かれ、精神看護援助論Iの科目責任者となりほとんど自分自身が担当する様になりました。ベースは今までのものを活用しながら自分自身の創意工夫をし、学生のモチベーションを高める努力を重ねていきました。

学修成果としては、事例を用いてグループワークを行い、模造紙にまとめていきました。多くのグループがあるので、発表の工夫としてポスター発表のように教室に掲示し、各自がそれぞれのグループ発表内容を自由に見ていく形式にしました。昨年度は時間の調整が短かったため、実際にポスター発表できたグループが少なかった点が反省点になり、次年度に向けた課題となりました。これについては、写真にまとめ冊子として学生に配布する形で補いました。今年度は時間を多くとり、プレゼンテーションも導入しながら感想を発表することもできました。

その後、グループワークを導入として個人ワークに移行し、看護過程の展開については細かく時間をかけて進めていくことができました。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

中期目標：「人間の総合的理解」「心身相関の理解」を基盤に、基礎的な知識の学習と病院実習での実践応用能力の習得、そしてコミュニケーション力の向上ができるように授業・実習指導の工夫をすることができる

短期目標：授業において病態生理等の知識から、患者に必要な検査・薬物・看護の展開まで可視化できるわかりやすい授業資料を作成し、教授できる

達成期間は 2024 年前期、授業終了まで

実習においては患者や家族、実習にかかわる指導者、グループメンバー等とのコミュニケーションを通して思いやる気持ちをはぐくみ、人間関係の構築を図れるよう支援することができる

- ・3 学年の領域実習の実践を通して、患者のセルフケアの力をアセスメントし、個別性を考え看護計画立案と実施の指導および支援ができる

達成期間：2024 年度実習終了時まで

- ・基礎看護学実習 I および基礎看護学実習 II については、対人関係を通じて患者に関心を寄せ、患者を受持ち患者理解に努めることができるよう一緒にかかわりながら実践できる

達成時期：基礎看護学実習 I ・基礎看護学実習 II は担当した場合に設定

- ・統合実習は 4 年間の集大成となり、知識や技術を統合し学生自ら考え、準備し、提供できるように指導できる

達成期間：2024 年 5 月

・

【参考資料】

- ・シラバス、授業資料、教科書等

【評価】

第1次評価 / 評価者名						
<評価>	5	4	3	2	1	
<コメント>						

第2次評価 / 評価者名						
<評価>	5	4	3	2	1	
<コメント>						

【評価】

第1次評価 / 評価者名						
<評価>	5	3	2	1		
<コメント>						

第2次評価 / 評価者名						
<評価>	5	3	2	1		
<コメント>						